

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】(アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームともえ
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	静岡県葵区上土1丁目17-95
記入者名 (管理者)	村上 万里子
記入日	平成 21年 8月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開所時に職員で話し合っって決めた理念を大切に、理念に基づいた「あなたがあなたらしく」を実現できるよう話し合いなどを設けている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ユニット会議などでの活発な話し合いで、利用者がその人らしく生活を送るためにはどういった対応が必要なのかまた、利用者の要望なども考慮しながら、日々実施するケアをスタッフ同士で共有している。</p>	<p>現在も月に1～2回設けているが、今後もユニット会議などの場を多くもち、利用者との関わりについて話し合い、実行していきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームでの日常生活の様子は月に1度送る手紙や、家族が訪問した際になど話している。また、ホームでの行事の際などには家族にも参加を促し、利用者との触れ合いの機会を大切にしている。</p>	<p>今後も今以上に、電話や手紙などを利用して、家族や大切な方との関係を重視していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣のスーパーや、八百屋などに買い物に出かけ、地域の人たちにもホームのメンバーの顔が少しずつ知られ、挨拶を交わすようになってきている。また、現在も近隣の方に顔を覚えていただくよう外へ出ることに努めている。</p>	<p>○ 近所の方たちとの触れ合いの場を増やしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内のお祭りや、公民館の掃除など、地域の行事にも参加をしている。廃品回収などの自治会の行事にも当番制で参加し、選挙などの投票にも顔を出し、地域の方との交流をもっている。</p>	<p>○ 町内の行事への参加を今後も行っていくためにも、町内の方との交流などで、情報を集めたりしていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣に住む高齢者が多いので、散歩に出かけたときなど、交流が出来るようにしている。また、近隣で徘徊している高齢者を見かけた際には、保護をしたりしている。	○	地域の高齢者とコミュニケーションを交わしている。
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行う際に、職員それぞれが携わり、結果を元に話し合いを行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月に夏祭りを運営推進会議とし、再開したばかりだが、家族、関わりのある業者などにも声をかけ、保育園のお祭りに参加させていただいた。	○	今後は適的に行い、会社が契約している訪問看護さんなどにも協力を仰ぎ、会議に参加し、医療面での報告などをさせていただく予定です。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所の担当さんともこまめに連絡をとり、利用者の様子を伝えたりなど行っている。また、市の相談員制度も利用し、利用者の声を代弁していただいたりしている。	○	今後も相談員さんからの情報をもとに(利用者の代弁)、より良いサービスが行えるように努力していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業、後見制度共に利用している。また、生活保護の利用者に関しては現在、権利擁護事業を利用していけるように手続きを行っている。	○	今後も制度を利用し、利用者の生活が円滑に行えるようにしていきたい。 また、同時に制度について職員全員が理解できるように勉強をしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を集めて検討している。また、虐待をすることがないように、注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などに関しては管理者がおこなっているが、事前面接や、入居・退居時には不安、疑問などがないよう、話をして	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や、家族の意見を聞き、モニタリング・ケアプランを作成している。 また、相談員制度を利用し、利用者の代弁者となっただき、苦情・不満などに対して話し合いを設け対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族への手紙を作成し、日常の様子や健康状態などを知らせ、出納帳のコピーも送ったりしている。行事の際には写真も一緒に送っている。 また、電話での報告、来所時にはアルバムを見ていただいている。	○
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情担当とは別に、苦情委員会を設けている。 苦情受付のポスターも張り出している。 また、家族の意見が反映していけるように、委員会などで話し合いを行っている。	話し合いの結果を反映し、掃除の徹底、利用者との会話の時間を重視して日々のケアをおこなっている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々気がついたことなどを話したり、ユニット会議などで話し合っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急受診や、普段の受診など家族が付き添えないご家族が多いが、当日の職員同士での話し合いで、スケジュールを調節したり、前もってわかっている受診等に関しては、人手があるときには余分に出勤したりなどの配慮を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職時に、認知症のある方には挨拶を避けたり、又理解できる方に関しては、不安を与えないような、辞職した後も安心して生活が送れるよう名挨拶をするなどと配慮している。	離職する者への配慮の改革が欲しい。 利用者にもホームにも慣れている貴重な人材を失うことはおいしいことであり、会社の制度の改革を行って欲しい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は積極的に呼びかけている。現在管理者会議、介護支援専門員研修、計画作成の交流会、新人研修などを主に行っている。また、外部の研修も随時参加を促している。	研修への参加・資格取得への推進を強化して欲しい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修で交流の機会はあるが、他の事業所との関わり、交流はあまりない状況。	○ 外部研修などに積極的に参加し、交流の機会を築いていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の交流を図る為の機会をつくっている。	人員的に困難であるが、職員が交代で長期の休みが取れるように機会をもつことで、職員それぞれの心の休息と栄養を得たい。そうすることによって、より良い介護が提供できるのではと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々疑問に感じていることや、個々の考えを会議などで話し合っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に管理者と介護支援専門員やユニットリーダーとで本人様と面接を行っている。その際にできるだけのアセスメントをとり、本人との関わりの強い方から話を聞いたりとしている。	その後、本人様が入居された際はアセスメントをもとに職員が再度本人様のアセスメントを行っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様が安心できるよう、初期の段階ではこまめに状況を報告したり、どうして行くことを望むのかなどを再度確認している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴は行っているが、他の介護保険サービスの利用ができないため、自費での負担は大きく、なかなかサービスを利用するまでは至っていない状況。		今後、様々なサービスを利用していきたいと思っはいるものの、経済的負担などを考えると現実には難しいものがある。 また、認知症状が悪化している利用者を受け入れてくれる民間サービスを探していくもの困難な状況である。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接を行ったり、あらかじめ本人様にホームに見学に来ていただき雰囲気を把握していただいているが、認知症状のために忘れてしまわれる方が多く、納得した上で入られる方が少ない状況。 それでも、馴染みの環境を創るために、畳を利用したりなどの工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意志を尊重しながら、やれることはやっていたいでいる(家事など)。 行事を一緒に行ったり、日々の散歩や買い物に出かけたり、歌を唄う機会を設けたり、身体を動かす際などには職員も一緒に関わることで、良い関係を築いている。		利用者と共に、1つの事をやり遂げるようにしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事などには声をかけるなど、家族にも呼びかけ、一緒に過ごす機会をつくっている。	○	呼びかけるも、参加が困難な場合が多いため時間や曜日に関して検討していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月次報告などでなるべく面会の機会などを持って欲しいと連絡したり、衣替えの時期や誕生日には呼びかけてはいる。 また、面会に訪れた際など、アルバムを見ていただき会話の架け橋を提供している。		現実、家族との関係を理解しているからこそ踏み込めない部分が多々あり、どこまで求めて良いのかが分からないのが現状である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの関係が継続できるように面会・外出などお願いしている。	○	利用者自身が逢いたいと望んでいる方に対して、話を聞き、家族と何処まで対応できるかを検討して行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食器拭きやゲームなどで、利用者同士の交流の場を設けている。	○	利用者同士の相性もあり、職員が間に入ることでトラブルを回避している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	移動(転居)された施設や病院へ面会に行くことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を聞き、問題などが発生したときになど、話し合いを重ねて、いろいろと行動を起こしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	必ず入所前に生活歴やこれまでの生活の様子を書いたもの(アセスメント)に目を通し、利用者や接し、会話の内容から理解している。 また、家族に話を聞くことで、より具体的なものになっている。	○	これまで以上にその方の得なことなどを引き出していきたい。 書道・花を育てるなどみつけては、楽しみを増やすようにしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	些細な変化などで、体調の変化を読み取れるように努めている。 不穏状態を取り除く早い対応を心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、各職員の意見をもとに介護計画の作成をおこなっている。	○	会話の多いケアを心がけたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	体力の低下、老化のための変化に応じ見直しをおこなっている。その際には、対処方法などを各職員に考えていただき、それをもとに話し合いを行い、プランに反映している。 (個々に合わせた排泄、歩行の介助、体力に応じた体操などの工夫をおこなっている。)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	基本的に、ケアプランに基づき記録をおこなっている。その上、本人様の言動をそのまま記録することで、感情の変化や認知症状の進行具合などを記録し、情報を共有しながら日々のケアをおこない、会議などに反映している。		職員同士の申し送りノートを利用し、日々の変化を共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各個人の生活に合わせて必要な物を購入したり、家族が対応できない受診や、買い物などをおこなっている。また、本人様と一緒に買い物(本屋、薬局など)や外食などの機会を設けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	図書館などの施設を利用している。消防署と連携をとり年に2回ホームに招いて訓練を行い、講習等を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	週に1度、訪問看護を利用している。その他のサービスは特に利用していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護事業は利用しているが、地域包括支援センターとの取り組みは現在ない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年利用されていた医療機関がある方などは、家族や本人様の希望があれば、そのまま利用を継続していただいているが、基本的にかかりつけ医への受診を行っている。医師の指示通り、定期的な受診し体調を把握している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		訪問看護師の指示に耳を傾け、活用している。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		「できること・できないこと」を職員とも話し合いを重ねている。また、医師にも相談をかけ、対応していくことができるかなどの判断も仰いでいる。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		事前面接を行ったり、あらかじめ本人様にホームに見学に来ていただいたり、移る施設と一緒に見学に行くなどを行っている。また家族への負担も少なくなるように、できる限りの情報を伝えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保に努めている。 声かけなども各利用者様に合わせて、言葉なども変えている。また、記録関係も人目に触れないように配慮している。	○ 言葉遣いに注意し、個人の尊厳を大切にしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の能力に合わせた会話の中から本人の思いや希望を聴き、自己決定ができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話や態度、表情などからその方のペースを考えて支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	職員が観察し、必要に応じて家族にお願いしたり、出向いたりなどして対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、盛り付け、食器拭きなどに参加していただいている。 また、本人様の嗜好品を取り入れたり、食事の摂取量の少ないかたには食べれるものを用意している。	○ 今後も家族から食事の好みなどを聞き、取り入れていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日々の中でポツリと言った話を聞き逃さず意にそうようにしている。	引き続き利用者様の声に耳を傾け、希望を叶えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンを調べたり、排尿の感覚を取り戻せるように日々職員との話し合いを重ね、失敗などの軽減に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その都度本人様に入浴について確認を行い、本人様の意思を尊重した上で入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人様の生活スタイルを尊重し、基本的には眠りたいときに寝ていただいている。 また、各個人に合わせて布団、ベッドなどと使い分けている。		今以上に安眠できるような環境の整備を今後も検討していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の支度や片付け、買い物、散歩に園芸など、職員とともにおこなっている。 また、楽しみとしてDVD鑑賞や読書、写経などを提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の理解力に合わせて、お金の使い方を考慮している。 ご自分で財布を持ち支払いできる方、職員がお金を本人様に渡し、本人様に店員に渡してもらうなど。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の八百屋を頻回に利用し、買い物へ一緒に出かけている。 また、天気の良い日などはドライブや、季節の行事(花見、七夕祭り)などへ出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望により、個別対応や、他の利用者様と一緒に可能な限り行きたい所へ出かけられる支援をおこなっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は本人様の希望があれば行えるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会に関しては自由に出入りしていただいている。また、知人に関しては家族に確認してからにはなるものの、面会できる体制をとっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束に関してのマニュアルを用意しており、いつでも職員が確認できる状態にある。また、身体拘束についてユニット会議などに話し合いをおこなっている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中かけていない(玄関など、開放している)。鍵をかけることで起こるデメリットを職員同士で確認している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	単独外出される方がいるので、利用者様の所在や様子に注意し、見守りを行っている。夜間は最低、2時間に1度の巡視を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の持ち物には名前を記入していただいている。共有スペースではすべての物を取り除くのではなく、生活観を重視しているが、見守りを厳重に行っている。また個人の居室に関しては、その方の状態に合わせて模様替えなどを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各個人の状態に合わせて工夫している。ベッドから転落するかたは畳に布団に変更したり、錠剤が困難な方に対しては潰して蜂蜜などの甘いものに混ぜたり、転倒に注意が必要な方に足しては鈴を利用するなどをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に協力を仰ぎ応急手当などの講義を受けている。また、訪問看護師より救急に関する知識を教えていただいている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を定期的に行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりうるリスクについて家族に説明し、対応策を考えている。また、身体拘束を望むご家族とは何度も話し合いを重ねたりなど、理解を得られるように努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインに気をつけ、排泄量、水分量にも気を配っている。必要があればすぐに受診をしている。また週1回、訪問看護師が訪れる際に体調の悪い方を看ていただき、支持を仰いで対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を朝・昼・晩とセットをする時には薬の説明書を確認しながら行い、薬が把握できるように努めている。セットしたものは間違いがないか、他の職員に確認してもらっている。また、一部の薬局には協力を仰ぎ、変更になった薬などにしをつけていただいている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防として繊維質の多い食材や、乳製品などをとるように心がけて排便を促している。また、それでも排便がない場合は、医師に相談するなどしている。	○	まだ身体を動かす機会が少ないため、散歩などの機会を今後も増やしていきたい。リハビリを行っている方もいるので、皆さんと一緒に運動できるように支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後ではないが、起床時と就寝前には口腔内の清潔に努めている。また、状態に合わせてガーゼを使用しての清潔維持など工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事を記録に残している。 利用者様によって食器など軽いもの、持ちやすいものに代え、おかずは人によって細かく包丁を入れている。 夏季は水分が不足気味になられるので、ゼリーやアイスなどを取り入れている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルあり、感染委員会なども行っている。 布巾、まな板など次亜塩素酸(キッチンハイター)を使用して、消毒を行っている。 入浴後その都度浴槽を洗い、また足拭きマットは1人ひとり交換している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は1回の買い物で2~3日分を買うようにし、長期保管はしていない。 台所は清潔を心がけ、調理する時間などにも気を配っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	保育園との併設のため、窓から子供たちが話しかけてくることがある。 玄関は寒くない限り扉が開いていることが多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁に季節ごとの飾り付けをしているが、利用者様自らが折った折り紙や、色づけされた作品などを展示するようにしている。 台所は誰でも入ってこられるように開放しており、一緒に家事を行えるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にくつろげるよう他者が見えないような位置にソファを配置し、仲良くカラオケなどができるよう工夫している。 席も大体決め、気の合わない人同士が一緒にならないように配置している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入所時に持ってきてもらうようにしている。ベッドより畳の方が好ましい人には畳を用意し、その上に布団を敷いて休んでいただいている。人によっては、居室に植木鉢を置いたり、ぬいぐるみを置いたりされている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気扇をまわしている。また、窓を開けての換気を行い、臭いの気になる居室などは消臭剤を使用したりと工夫している。体温調節が困難な方が多いため、エアコンなどを使用して職員が調節をしている。	○	エアコンを使用する際には風が継続的に当たらないよう、席を時々変えるなど配慮していきたい(現在も行っているも、職員にまだ定着していないため)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	人によって、居室にポータブルトイレを置いて夜間に使用したりしている。車椅子の生活になられた方などは、居室の様様替えなどをおこなっている。また、静かに本や写経などできるように居室に机を置いたりしている。畳の生活に慣れている方は畳を使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物をたたんだり、食器を拭いたり、食材を切ったりするなど、家事をできるだけ利用者様と一緒にしている。	○	混乱防止には声かけが大切であり、その都度説明が大事であり、日々気をつけているが、今後も気をつけていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターを置いて花や野菜を育てている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

トラブルや、問題に直面した際には職員同士で話し合いを重ね、早い対応を心がけている。
また、日々の話し合いを通じて情報を共有することで、より良いサービスが行えるように努力している。
季節ごとの行事を取り入れ、四季を感じていただけるように支援している。